

昭和八年十月十五日

陸東軍參謀部

停戰協定善後處理一覽ノ北平會議口事録

配鐵先

次官、五、次長、五、天津、二、北平、二、

上海、一、牙入師團、一、混成旅、一、四旅團、一、

少将、一、奉天、一、承德、一、大津、一、

五、參謀部各課、一、軍政部、一、

昭和八年十月十五日

686

0171

REEL No. A-0195



アジア歴史資料センター

停戦協定

河北

停戦協定成立後河北省戦区内に於ける支那側
 の接收ハ大要順調ニ進捗シタルニ長城ニ接近
 セル一部地方ニ對シテハ數多ク原因ニヨリ今
 日尚接收未完了ノ儘放置セラルリテ速ニ是
 等地方ニ對スル接收ヲ完了セシメ以テ戦区内
 ノ整調ヲ圖ルト今尚長城線ヲ以テ國境線ヲ
 照示セシムルコト緊要ナルノミナラス此際
 支那側ヲシテ國境附近戦区内ニ配置セラルハ
 支滿洲國諸機関ノ存在ヲ承認セシメ併セテ長
 城内外ニ於ける交易、通信、交通連絡ノ關係

支那側

0172

687

ヲ致シテ戦前ノ状態ニ復歸セシムルコト切要
 ナリ右目的ヲ達成スルニ爲シテ今や最ニ計畫セラル
 ヲリシ停戦協定善後處理ニ關スル交渉ヲ既
 如スヘキ氣運ニ致看シタルニト認メ十一月五
 日參謀副長岡村少將ヲ軍代表トシテ北平ニ派
 遣セラルルニ至レリ
 而シテ今次ノ會議ニ於テハ支那ノ情勢ニ鑑ミ
 好ムテ形式ヲ際々實効ヲ收ムルヲ旨トシ且
 交易、交通、通信ニ關スル事項ニ就テハ軍ハ
 單ニ滿洲國ニ於ける交渉開始ノ格渡ヲナシ

支那側

0173

688

左記

(一) 交渉の經過ト支那政界ノ情況

(二) 議事要録其一、

別紙甲、北支善後交渉ニ際シ取極案(我方提示案)

(三) 議事要録其二、

(四) 議事要録其三、

(五) 議事要録其四、

別紙乙、停戰協定善後處理ニ際スル申合事項(決定)

方ノ間ヲ斡旋スルニ在リキ

岡村少將一行ハ十一月六日北平ニ到着シ翌七日ヨリ九日ニ亙リ黃郛、何應欽等ト會同シ相互ニ意見交換シ討議セリ

ハ對内的關係紛糾ニ殊ニ南京方面ノ空氣險惡トナリ會議ニ相者ノ波瀾曲折ヲ生シ且ルハ九日ニ至リ概シ我方ノ申出ヲ承認シ本問題ヲ圓滿ニ解決スルヲ得タリ

茲ニ本會議ニ於テノ議事ヲ左記ノ通り收録シ參考ニ供ス

別紙丙 支那側ノ提出セシ希望事項
別紙丁 右ニ對スル回答

(一) 支那ノ經過ト支那政界ノ情況

大連會議ノ鐵道ニ関スル申合セ事項中北平、奉天列車直通問題ハ今日ニ至ル迄未ダ實現スルニ至ラズ最近支那各地新聞ニハ大連會議責任者ヨリノ殷同ノ北甯局長就任以來本通車問題ノ是非論漸ク喧傳セリ十月十六日岡村少

支那大連會議報告書

0176

691

將一行ノ飛行機ニヨリ北平ニ入ルヤ支那新聞ハ皆通車、通車問題支那ノ為ノ來平ナリトテ大々的關心ヲ以テ報道セリ後岡村少將等ノ說明ニヨリ山海關等ノ接收ヲ支那スルニ元ノ十ニトナシ漸解セシカ如キニ要スルニ一行ノ北平入りハ政界並ニ新聞界ニ對シ相當ノ衝動ヲ与ヘリ、是ヨリ先宋子文下野後南京中政會議方面ニ於テ彼等ノ一味ヲ李石曾、吳稚暉等カ汪精衛、黃郛、唐有仕等所謂留日派ヲ排斥セムトスル運動ノ漸ク感シトナリソフアハ

支那大連會議報告書

692

0177

上海報其他之ヲ周知ノ事實ナルカ固村少將ノ
 入平ト考ニ李石曾等ハ他ノ委員ヲモ使噤シ中
 政會議ニ於テ汪精衛ニ對シ北支ニ於テハ陸東
 軍トノ交渉ハ事外交問題ナルヲ以テ中政會議
 ノ指令ニヨルヘリ獨斷交渉ヲ許サスト叱責シ
 之ニ對シ汪ハ句論中央ノ指令ニ依ルヘキモノナ
 リト應酬シ一方宋子文ハ東北軍將領ニ擬テ飛
 ハシテ北平交渉ヲ監視セシメ且ル事案アリテ
 一月八日黃郛ハ固村少將ニ對シ唐有生ヨリノ
 密電ヲ通テ内示シ且ルカ甚ハ内容ニヨリ以上ノ

現代支那大辭典編輯部編

0178

693

事實ハ確實ナリ
 十一月七日汪精衛ハ本問題ノ紛糾スルヲ恐
 レ固村少將ト協議ノ為飛行機ニ乘シ南昌ニ赴中
 日ルカ如シ
 十一月九日在平倫敦タイムズ記者「エム、イン、
 ト」ト下「ハ固村少將ヲ來訪シテ曰ク、
 「昨日南京中政會議ニ於テ華北當局ニ對シ貴
 官トノ交渉中止ヲ要求シ且ルノ報ヲ受領シ
 且ルカ是ニ對スル貴官ノ感想如何ト
 右ハ事實ナリシモ當時固村少將ハ是ニ際シ何

現代支那大辭典編輯部編

0179

694

等承知シテアヲサシシヲ以テ適宜應酬セムカ
日ニ於ケル華北当局側ノ交渉ハ相尋ニ頑
強ナリシモノアリシノミナラス黃郛ハ特ニ固
執少辯ヲ來訪シ約ニ特固ニ互リ其苦衷ヲ述ハ
我方並強ク緩和ヲ懇願セムヲ見テモ此間ノ消
息ヲ窺知シ得ヘシ
當時黃郛、何應欽ハ右中政會議ノ交渉中止要
求ニ對シ困惑セシカ般同ノ意見ニ基キ直ニ
在南昌蔣介石、汪精衛ニ對シ電報ニ直接
總指示ヲ仰キシニ折返シ汪精衛ヨリ依然交渉

現代文藝大野真由美著

ヲ繼續シテ可ナリ、中政會議方面ハ九日汪カ
南京ニ歸リテ諒解セシムヘキ旨同電アリシヲ
以テ九日ニ至リ雙方ノ相尋強硬ナシ共強クモ
密ニ(支那側ニテハ第一項「長城線」ヲ含メザルノ
字句ヲ挿入スルノ件及第四項「航空」ノ件ハ最初
ヨリ強硬ニ反對シ頑トシテ承認セザリシニ拘
ラス九日裡ニ至リ漸ク納得セリ)九日裡九時
即チ一行出張前裡友海ノ成立ヲ見ルニ至レリ
(註)

九日黃郛ハ密カニ國府少將ニ對シ「本中合意

現代文藝大野真由美著

日 時 昭和八年十一月七日午前九時開會同
 (二) 議事要録 第一
 用意ヲ必要トスヘシ
 ヲトモ留日派ヲシテ苦境ニ陥ラシメサレノ
 更ニラ油ヲ流キタルノ感アリ 吾人ハ少
 ノ留日派打倒運動ハ甚ク激化シ北平交渉ハ
 之ヲ要スルニ宋子文下野後ニ於テハ改米派
 ニ関シ懇請スル所アリ
 之ヲ要ムコト愈ク痛切トナレリ 一身ニ注意セ
 ラルヘシ云クノ般同宛密電ヲ示シ秘密保持
 ニ関シ懇請スル所アリ
 之ヲ要スルニ宋子文下野後ニ於テハ改米派
 ノ留日派打倒運動ハ甚ク激化シ北平交渉ハ
 更ニラ油ヲ流キタルノ感アリ 吾人ハ少
 ヲトモ留日派ヲシテ苦境ニ陥ラシメサレノ
 用意ヲ必要トスヘシ

698

0183

項ノ本文ハ直ニ南京ニ報告スルコトナク
 精衛ト密ニ連絡シ彼ノ立場上差支ナキ時期
 ニ至リテ報セムトス、既ニ申合セタル事ナ
 ルカ吳口モ世界ニ洩レタル様御配慮ヲ乞フ
 旨語ル所アリ
 超ハテ十一月十一日正午天津出發ニ際シ般同
 ハ唐有任ヨリ「宋子文李石曾一派力今次ノ北
 平會議ノ結果ヲ探知シテ攻撃ノ材料ニ供セ
 ント策動スルコト益ク甚シ此際切ニ新聞記
 者ニ注意セラルヘシ又彼等一派ハ宛(般同)

現代支那大要録編輯部印

697

0182

若二 換壤地域ニ於テハ 雙方ノ人民ノ利益ノ	善後處理ニ関スル 各般ノ事項ヲ取極メテト	今般出席スルニ當リ 軍司令官ヨリ 停戦協定	岡村参謀副長	般 汝 耕	陶 尚 銘	般 同	何 應 欽	黃 鄂	支 那 側
-----------------------	----------------------	-----------------------	--------	-------	-------	-----	-------	-----	-------

現代支那大戦兵國協定草案用紙

700

0185

場所	北平外交部大樓	十一時散會
出席者	日本側	岡村少將
		喜多 大佐
		花輪書記官
		菊地大佐
		中山書記官
		根本中佐
		柴山中佐

現代支那大戦兵國協定草案用紙

699

0184

為ニ諸種ノ事項ヲ協議セヨトノ訓令ヲ受ケ
 たり
 第一ニ支那側ノ御記憶ヲ願ヒキコトハ滿洲
 二於ケル日本ノ施設即チ事變以來既ニ數億
 ノ豫投資ヲ為シ更ニ萬餘ノ死傷者ヲ出シ日
 二コト又其ノ為ニハ聯盟脫退迄シ日ハ事實
 二シテ日本國ハ如何ナル犧牲ヲ振テモ滿洲
 國ヲ維持スル決心ナリ然レモ一方滿洲ヨリ
 更ニ南ハ領土ヲ擴張シ又ハ之ニ就テハ隱謀
 ヲ為スル如キハ関東軍ニ於テハ絶對ニ排除

昭和九年六月四日陸軍省機密文書

701

0186

スル方針ニテ實ハ濼東地区ニ於ケル人民ヨ
 リ滿洲國ニ併合ニ関スル請願多數達シ居ル
 毛如斯モノニ付テハ相手ニヤサレノミナラズ
 日本人ノ不良分子ニ付テモ嚴重ニ取締ル方
 針ニテ穩々此等ノモノニ付實情等モ印シ之
 等ノモノトハ我等ハ全ク関係ナク軍ノ目的ト
 スル處ハ戦已ノ接收ヲ奇麗ニテシ度ク戦区ニ
 於ケル寧靜ハ滿洲方面ノ最モ希望スル處ニ
 シテ滿洲側ヨリ此ノ地域ヲ攪乱スル等ノ意圖
 ハ毛頭ナク先般ノ方振武事件ニ付テモ右方

昭和九年六月四日陸軍省機密文書

702

0187

針ニテ進ミヨルコトハ結局貴方ニ於テモ終
解ルル處ト信ス

黄郛

右閣東軍側ノ意氣ニ就テハ過般柴小武官司
リモ私リ居レリ

只今閣下閣下ノ申サレタル不良分子ノ掃除
ハ感謝ニ堪ヘス

日米人ハ別トシテ支那人、滿洲人ニシテ濼
東ニ於テ独立運動ヲ為ス場合相當實力ヲ
以テシテ對シテハ之ヲ如何ニ處置スヘキヤ

現代支那大政界要人書翰集

0188

703

岡村副長

先般ノ撫寧城ノ例ニ從ヒ日本側カ山海關等
ヨリ之ヲ牽制スルト若シ支那側保安隊ニ於
テ然ルハ之ヲ處置スルコト適當ナルハシ

尚獨立運動者ハ大連、天津等ヨリ策動スル
モノノ如キモ最早大體一掃セリ今後大
ナル心配ノ要ナカレハシ

黄郛

劉桂堂、湯玉麟、李守信等ニ就テハ如何
岡村副長

現代支那大政界要人書翰集

0189

704

岡村副長

李ハ初メ日滿軍ト戦ヒツテ滿洲ヲ去テ行キ
 日ハモノニ出テ目下ノ處何等惡事ヲ為シ居
 ラス今方面ハ平穩ナリ、滿洲國旗ヲ掲ケ
 下ハ爆撃ヲ恐レ日ハ結果ナラン

關東軍トシテハ最モ利害關係多ク又自立
 ナ居ル山海關ノ接收ヲ第一ニ希望シ同地可
 リ漸次其他ノ地域ヲ奪取スル方針ナリ
 王熱河方面ハ交通關係上建築材料等モ全
 シク實際上急ニ運ビ難シ

706

0191

岡村副長

何トカ為シ修ナリヤ

現ニ滿洲國ノ旗ヲ樹テ居ル由ナリカ此レヲ
 爲サス又獨強等ハ事實上困難ナリ李印信ハ
 彼等ハ互ニ戦ヒツツアハモ徹底的ニハ之ヲ
 黄郛

レ階級ヤ

劉子湯ニ付テハ目下互ニ戦ヒツツアハモ
 ノ如キニ付テハ自滅スル様ナリレ奪ク何レニ
 己ノモ之等ノ何レカ遠方ニ強クスル様願ハ
 不

705

0190

黄郭

山海関ヲ接收スル以上縣知事ヲ入城差支テ

キヤ

岡村副長

然リ只現ニ滿洲國側各種ノ機關存在シ居ル

ヲ以テ之トノ實際上一ノ連絡ニ付テハ陝東軍

ニ於テ本職ナリ喜多夫佐ナリ出張シ圓滑

ニ行ハルル豫畫カスヘシ

大体ノ語ハ此ノ條ニシテ取極案(別紙甲)

ノ説明ヲ申上クヘシ

現代支那大戦九回録第四巻

0192

707

一乃至三八現狀ヲ当分甚ク保ニ維持スル立

ニシテ何等事新ラシキモノニ付ラス又山海

関ノ如クハ現在ハ同地ニ駐兵シ居ルモ目下

新築中ノ岳營完了ト昔ニ陝東軍部隊ハ長城

以北ニ修シ居ナリ

四ハ大連會議ノ鐵道問題ニ於ケルカ如ク實

際上ノ事務ヲ行フ為ニ貴方ト滿洲側トノ

交渉ノ橋渡シヲ為ス趣旨ナリ

黄郭

昨日ヨリノ副長ノ御語ニ依リ今回ノ會合ハ

現代支那大戦九回録第四巻

0193

708

相談的ニテ強願的ナラス即チ各方ノ苦情
モ又レクハモトト諒解シ居レリ故ニ取極
中ニ八成ハ可ク不必要ノ文句ヲ避ケタシ
本案ニ華北政權ノ字句アルモ我等兩人ハ共
ニ南京ヨリ來リ本件ニ就テモ南京政府ノ許
可ナクシテハ如何トモ為シ難ク本案ハ中央
要路ニ内示スル必要アリ為ニ萬一漏洩ノ場
合ニ處スル為本案ハ署名モモス捺印
モモス又發表モモスト云フモ發表ハレテモ差
支ナキ様ノ体裁ニ致度シ

0194

先ノ第一ニ滿洲國ノ文字ハ絶對ニ避ケラレ
度シ
何、般相談ノ後
般同
何部長ノ代理トシテ申上クハカ本来日本ト
中國トハ親善ナラザルハカラス然レモ之ヲ
達成シ得ルハ日本ヨリ來ル要求ハ常ニ高
壓的ナレト解セラレ居リ然レモ問題ハ小
ナレトモ一般ノ不安ヲ伴フ故ニ我等ハ此ノ際
互ニ誠心誠意ヲ披瀝シ穩便ニ事ヲ運ヒ之ヲ

0195

710

于解シテ然ルハ中ヤ
 岡村副長
 然リ先ツ此ノ機會ニ於テ貴方ノ希望スル
 原則ヲ述ヘテ之ノ文字ノ整理ニ就テハ本日午
 後係會ノ間ニ處理シ度ク貴方ヨリハ貴方大
 佐、礼翰書記官根木武官ヲ出スヘシ
 貴部
 右然ルハ、貴方ヨリハ殷同、陶尚銘、殷汝
 耕ノ三名ニ出テ貴方ヘシ
 先ツ原則ト云ヘハ

712

0197

然ラハ本案ハ停戦協定ニ對スル善後處理トシ
 テ圓滿ニ解決スル様致度シ
 本職モ全ク同感ニテ單ニ地方的ノ問題トシ
 度リ又之ニ付テハ有吉公使ヨリモ注意アリ
 トトシ今同ノ問題ハ地方問題トシテ處理シ
 然リ然レ共兩國關係ノ問題ハ後日ニ譲ルニ
 スル様致度シ
 岡村副長
 世間ニ示シ次ニ來ル大問題ヲ安心シテ處理
 せん様致度シ

711

0196

定ノ期限ヲ附セラレ度ニ
 岡村副長
 期限ヲ附スルニトハ困難ナリ建築材料等ノ
 見当付カサルノミナラス若シ戦已地方絶對
 ニ安全トナラハ隨意ニ全部撤退スルヲモク
 ムハシ要スルニ目下ノ陸軍ニ於テハ及滿分
 子等ノ策勦ヲ阻止スルニハ絶對ニ此等
 方ニ駐兵スルノ必要アリ従テ其ノ時期ニ付
 千ハ明定シ難ク文句ハ甚ク誤トシ解釋ニ於
 テ更ニ再ヒ協議スルニトトテ如何

714

0199

一、題目ハ停戦協定ニ對スル善後處理ト致度
 二、滿洲國ノ文字ヲ用ヒサレコト
 三、第四項中通商航空ノ件アレモ通商ニ付テ
 ハ通商條約ノ内容ノ如ク思ハレハ付
 之ヲ取極ムルニト能ハス
 航空ニ付テハ我等兩人在ル以上尙方面ニ
 日本ヲ善シ置キ第三國ト航空利權ノ設定
 等セザルニ付御安心ナリ度
 四、第三ノ場合ノ間トアレモ例ハハ一年ト一

713

0198

於ハ日本軍ハ吾等長城以東ニ駐屯シ得ル
 一權利ヲ有スルモノナリ
 岡村副長
 由貴子討正意見ニ付テハ我等ハ同意ノ権限
 ナリ更ニ請訓ノ必要アリ
 文句ニ就テ七例ハハ滿洲國ノ文ヲ字ノ如ク
 ハ本年三月二十七日ノ詔勅ニモ明示セラル
 ヲリテ之ヲ改ムルヲ欲セザルニ實際上一
 必要ノ為ニ我慢シテ之ヲ改ムルカト考ヘ居ル
 次第ナルニ付貴子ニ於テモ出来得ル限り實

現代支那大國共産黨の暴行

0202

717

際上ノ見地ニ基キ處理セラルル
 尙、貴、殷協議ノ後
 殷同
 兎ニ角モ右六綱ニ依リ爾後僑官ト打合セ
 コトノ致意
 廿一同同意散會

現代支那大國共産黨の暴行

0203

718

(別紙甲)

北支善後交渉之膠濟線之取極案

(八一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百)

人民相互ノ福祉ヲ増進シ其ノ平和ヲ以テ生活ヲ
期望スルヲ為速カニ戰已ニ無ニ搖蕩地方ニ於テ
秩序ヲ恢復シ通信、交通、通商關係ヲ正常狀
態ニ復スルハ刻下ノ急務ナリト認メ曩々大連
會議ニ於テ鐵道問題ヲ協議處理セリトモ西
領ヲ準用シ昭和八年十月一日ヨリ同月

719

0204

日一五ノ陸東軍代表陸軍少將岡村寧次、
陸軍歩兵大佐喜多誠一、大使館書記官
花輪義敬ト華北政權代表
ト北平ニ會

高シ左ノ通り取極ヲナス

第一、陸東軍ハ北支政權カ其治安維持機能ノ

充實ニ伴ヒ長城線ヲ含マセ長城以南

ハ以西ノ地域ヲ速カニ接收スルニトテ希

望ス

本項ノ細部ニ關シテハ左ノ通り瞭解ス

ルモノトナ

720

0205

第三、北支政權ハ接收地域内ニ於テ当分ノ内
 日本軍隊駐屯ノ為必要ナル土地建物ヲ
 日本軍ニ提供ス
 本項ノ重要ナル地點差当リ左ノ如シ
 山海関、石門砦、建昌營、柏頭營、冷
 口、喜峰口、馬蘭関、古北口、
 但シ軍需品輸送ノ為灤河水運利用門ハ

722

0207

第一、長城線各関門ノ警備權ハ日滿側ニ屬
 ス
 口、日本軍ノ駐屯スル住民地ニハ武装隊
 体ヲ配置セザルモノトス
 第二、北支政權ハ其接收地域内ニ於テ長城
 ニ接續セシクハ接近セシ地区ニ諸般ノ
 事項ヲ處理スル為若クハ經濟上ノ便宜
 ノ為必要ナル滿洲側諸関門ノ配置ヲ認
 容シ且是等関門ノ警備ニ最善ノ援助
 ヲ與フモノトス

721

0206

必要ニ應ジ滿洲ノ外遷要、撤河橋等ニ
 所要ノ施設ヲ行フコトヲ以テシ
 第四、北支政權ハ滿洲國トノ間ニ於テ相互
 ノ通商貿易、交通、通信、航空連絡等
 ノ設定スル為速ク必要ナル委員ヲ定
 ヲ交渉ヲ開始セシムルモノトス
 本項交渉ハ概テ左ノ部門ニ互ニモノトス
 一、税関ニ関スル件
 二、通商ニ関スル件
 三、郵政ニ関スル件

昭和十四年八月十四日

0208

723

二、電政ニ関スル件
 三、航空ニ関スル件
 四、長城線ニ於テノ警務、檢疫等ニ
 関スル件
 註。一、本交渉ノ地點ハ山海関トス
 二、北支政權ハ即時又ハ速クニ右各項
 毎ニ交渉委員ヲ互ニ交渉開始ノ期日
 ノ定メ陸軍軍ニ通告スルモノトス

昭和十四年八月十四日

0209

724

熱河西南境察哈爾省ニ駐ルニ雜軍處理案

(一八、二、二) 陸軍參謀部

熱河西南境ニ據ルニ察哈爾省内ノ独石口、雲
州堡、赤城ノ帯(昔ニ支那軍不進入地帯)ニハ
湯玉麟(銃數四千)劉桂堂軍(銃數三千)駐
ルニアリ
最近是等雜軍ハ方、吾軍ト合作シテ華北權ニ
反抗セムト企圖シタリト結局持手親望ヲ絶望
ヲ持テ行動カス將來全地一帯ニ盤踞スルニ至

現代支那大野兵部編纂局

0210

725

ルモノト判断セラル、軍トシテモ早晚之ニ對
スル態度ヲ決定セサルハ力ヲササレ情況ニ在リ
是カ為對策ヲ定ムルコト左ノ如シ

◎對策

雜軍ヲシテ地支配權側ニ合流セシメ全地一帯
ニ停戰協定ニ基ク保安隊(劉、湯軍ノ一部ヲ改
編シ其他ハ戰已外ニ移駐スルハ解散セシム)
ヲ配置セシム
(該會議準備書類ニシテ支那側ニハ交付セズ)

現代支那大野兵部編纂局

0211

726

察東問題ニ関スル應酬要領

(一) 察東軍務部

察東問題ニハ叙レハノ觸レサル様迄意スル事緊要ナリト雖モ若シ支那側ヨリ本問題ニ言及スル場合ニハ左ノ如ク應酬ス

「目下察哈爾方面ハ極メテ平穩ニ維持セラルルヲ以テ北支政權ハ暫ク現状ヲ默認シ勇ク河北省戦已内ノ整頓ニ努力スルヲ可トスル旨適宜申渡ス」

支那側ニ於テ右應酬根リニ満足セズ強テ察哈

現代支那大戦兵器部資料用紙

爾ニ関スル言質ヲ求メトスルニ於テハ左ノ如ク言明ス

一、停戦協定線ノ延長以北ノ察哈爾省ニハ正規軍隊ノ進入ヲ許サズ

二、北支政權カ右ノ地帯ニ對シ何等カ企圖ヲ有スル場合ニハ李守修ト協議セリテ之ヲ

能ク會議準備書類ニシテ支那側ニハ交付ス

現代支那大戦兵器部資料用紙

昭和八年十一月七日午後三時開會全
 方時教會
 出席者 日本側
 喜多 大佐
 花輪 書記官
 根本 中佐
 柴山 中佐

(三) 議事要録 其ノ三

730

02145

東陵守備ニ関スル件
 (八) 東軍参謀部
 北支政權ヨリ東陵守備ニ付シテハ熱河省軍ノ
 関外撤退ヲ要求スル場合ニハ左ノ如ク應酬ス
 一 北支政權ニ於テ東陵ハ責任ヲ以テ保護スルキ
 旨誓約スルニ於テハ全地ニ在リ熱河省軍ヲ撤
 退セシム (書類ヲ要求スル)
 右書類ハ北支政權ヨリ軍司令部宛ニテ可十
 (註本件ハ柴山中佐ヨリ支那側ニ送付スルハ
 送付済ナリ)

729

0214

一各場ノ事項ニ付テハ中國側ト考ヘ方ノ相違
 無キニ非ス乃チ
 取極案第一ノ骨子ハ長城ノ線ハ日本軍保持ス
 トノ思想ナリ又「接收ヲ希望ストノ意ハ現在ハ
 宛モ中國側ハ好シテ接收シ居ラサレウカ如ク解
 セラレ、右ニ點ハ中國側トシテハ忍シ難シ何
 トナレハ長城ハ何チ來漢民族ノ誇トセムトコ
 ロニシテ之ヲ日本軍ノ手ニ永久保持セラレウ
 コトハ非常ニ民族思想ヲ刺戟スルモノニシテ
 中國ノ自尊心ヲ損クムコト之ヨリ甚シクハ無

732

0217

壁頭喜多大佐ヨリ年前陸東軍ヨリ提出ノ取極
 案ニ對シ中國側ノ意見承認シ度述ハルニ對シ
 殷同ヨリ左ノ趣旨ノ陳述アリヨリ
 本取極案力戰已ニ對スル調整ノ趣旨ヲ有スル
 陸東軍ノ御厚意ニ付テウ充分ニ諒解セリ然レモ本案

731

中國側

殷同

陶尚銘

殷汝耕

0216

ク且ク停戦協定ノ日本軍ハ概シ長城ノ線ニ歸
還スルノ趣旨ニモ合致セズ故ニ鶴ハクハ騎襲ニ
長城ノ線迄接收サセテ戴中止ムヲ賜ケル地點ノ
ミ「当分」間日本軍之ヲ警戒スル趣旨ニ改メ
ラ「度現ニ或地點ニ於テハ中國ノ保安隊警戒備
ニ依リ居ル状況」ハ事實ハ相違セサレモ右中國
側ノ見解ヲ認メラ「度」ク見解ノ下ニ原案第一
ハ左ノ通り改メラ「度」

関東軍ハ長城以南及以西ノ地域ニ對シ、接收
未了ノ範圍所ヲ速カニ完全ニ接收スルコト

近代支那大戦兵器資料館蔵

733

0218

ニ同意シ長城各隘門ヲ中國側ニ交還スルモ
ノトス

但シ左ノ五箇所ノ隘門ノ警戒備ハ当分ノ間日本
軍之ニ依ス

山海関カ古北口、喜峰口、冷口、界嶺口(即
チ原案中潘家口ヲ除外ス)

次ニ第一ノ原案ハ滿洲國諸機關云々トアリ
シテハ滿洲國ノ事實上承認スルノ結果ヲ求メ
殊ニ山海関等ニ於テ滿洲國郵務局、滿洲國税
関等ノ看板ヲ掲グト刀或ハ滿洲國ノ旗ヲ掲

近代支那大戦兵器資料館蔵

734

0219

〇〇等ノストハ絶對ニ避ケラレ度又警察機
 関ノ配置ニハ絶對反對ナリ
 原案第三八条一ノ前記ノ通り改ムル以上規定
 ノ要ナシ
 原案第四中通商貿易及航空連絡ニ之ヲ削除ス
 レ度
 何トナレハ通商ハ午前ノ會議ニ於テモ述ヘヨ
 ル如ク通商條約ノ規定ノ如クナリ本會議ニ於
 テ決スルニトハ不可能ナリ又本會議ニ於テ處
 理セントスルハ事案前ノ事实上ノ交通ノ回復ナ

現代史部大野共四部會談用紙

735

0220

〇〇以テ新ニ計畫施設ヲ要スル航空問題ハ之
 ヲ避ケルヲ要ス
 更ラニ前文ハ趣旨ハ可ナル協定又ハ取極メ
 如キ体裁ハ面白カラヌ又北支政權十ニモノハ在
 在セサレテ以テ華北軍政當局トシ前文ヲ左ノ
 如ク改メラレ度
 停戰協定善後處理ニ際シ大連會議ノ要領
 ヲ準用シ年月日華北軍政當局代表ニ
 關東軍代表ニ
 一ト北平ニ會同シ左ノ通
 リ議解ス

現代史部大野共四部會談用紙

736

0221

右ハ関東軍提出ノ原案其ノニ對スル修正意見
 見上ルモノ午前黃郛氏モ申サレシ如ク華北當局
 側ノ申分モ階カレテ左ノ五項ヲ認メテラレテシ
 一、日本軍以外ノ武装團體者ハ警察隊等ノ
 職区内ニ入ルコトヲ禁ス右ハ滿洲國軍又ハ
 警察隊ヲ排除スル趣旨ナリ
 二、協定線ハ盧台ヨリ延慶ニ至ル迄ノ地域ト
 ス
 右ハ日本側ハ從來擴張解釋ヲ取リ居ル如キヲ
 以テ嚴シク停戦協定ヲ守ラレタトテ希望スル

0222

737

趣旨ナリ
 三、長城各関門及戰区内ニ駐屯スル日本軍ハ絶
 對ニ地方行政ニ干渉セズ
 四、北寧鉄道沿線ノ日本軍ハ山海関事件以前ノ
 状態ニ復スルコト
 五、察東地方及魯南ノ接收ヲ完全ニスルコト
 右般同陳述ニ對シ我方ハ並トシテ喜多夫佐舟
 ノ衝ニ當リ左ノ趣旨ヲ述ヘタリ
 前文ハ今回ノ會議ノ趣旨ヲ説明セシモノニシテ
 地方政權側ニ有利ナリト信シ斷ク作效セルニ

0223

738

ノ十ニモ貴方ニ於テ簡明ヲ希望セヨ
テハ其ノ通り改ムル可キ
原案第一ニ付テハ本取極ハ停戦協定ノ規定ノ
範圍内ニ於テ之ヲ適者ニ調整スルカ目的十ニ
ヲ以テ停戦協定ノ規定ヲ變更スルヲ得ク今協
定ニハ「概系長城線」トアリ長城線ノ警備ハ
当然我方ニ歸シ右ハ又現在ニ於テ實際ノ狀
況ナリ
原案第二ハ滿洲國ノ字カ不適当ナリニ於テハ
何トカ考慮シテ可ナリモ差当リ原案通りトシ

現代文部大臣内閣事務官

協議ヲ進ト登其ノ機関中ニ警備機関ヲ含ム
コトハ絶對ニ必要ナリ右ハ入国取締、密輸入
防止、犯罪ノ引渡等ノ為少数ノ警察隊ヲ置ク
コトハ当然ナリ
原案第三ハ第一ノ長城線及閘門ノ警備問題ト
異リ接收地域内ノ治安維持問題トシテ送ノ問題
臨時的處置ニテ同地域ノ治安ニ付安心出来ル
ニ限リ本項ハ絶對ニ存置ノ要アリ
原案第四ハ航空連絡ハ交通ノ内ニ包含スト解
スルニ於テ之ヲ削除スル可ナリ

現代文部大臣内閣事務官

停戦協定善後處理之際又ハ申合セ事項
 停戦協定善後處理之際ハ大連會議ノ要領ヲ
 準用シ年月日關東軍代表並某ト華北軍政
 当局代表某ト北平ニ於テ會同シ左ノ通り申
 合セヲ為ス

第一 關東軍ハ華北當局カ其治安維持機能ノ
 充實ニ伴ヒ長城以南及以西ノ地域ヲ速ニ
 接收スルコトヲ希望ス

長城線各關門ノ整備ハ相互ノ協議ニ依リ
 決定ス

742

0227

又中國側ノ所謂申合五項中ニハ停戦協定其ノ
 モノニ關シ今更此ノ問題ニ觸ルルハ不可ナリ
 又四ハ團匪事件ノ議定書ニモ關係シ天津軍ノ
 関スル所ニシテ關東軍トシテハ如何トモシ難
 リ右ニ項ハ撤回セラル度其他ノ項ニ付テハ更ニ
 研究ノ上提出セラル度ニ

右一般説明ノ後條文ノ討議ニ入り一先ツ別紙
 ノ如キ案文ヲ作成シ更ラニ日討議ヲ續クル
 コトトセリ

741

0226

第二、華北当局ハ其接收地域内ニ於テ長城ニ接
 續スルハ接近セル地域ニ諸般ノ事項ヲ處
 理スル為若クハ經濟上ノ便宜ノ為必要ナ
 ル滿洲國諸機關ノ配置ヲ認容シ且ク是等
 機關ノ業務ニ便宜ヲ與フルモノトス
 本項ノ具體的事項ニ關シテハ別ニ協議ス
 第三、華北当局ハ接收地域内ニ於テ各分ノ内日
 本軍隊駐屯ノ數ハ概テ左記各地ニ於テ
 必要ナル土地建物ヲ日本軍ニ貸與スルコト
 ヲ承認ス（以下山海關其他ノ地名及灤河

現代支那大國共産黨の成立

永運ノ但書、取極案ノ如シ
 第四、長城内外ニ於テハ交易、交通、通信連絡
 等ヲ設定スルコトハ互ニ必要ナル委員ヲ定
 ム速ニ交渉ヲ開始セシムルモノトス
 (四) 議事要録 其三
 日誌 昭和八年十月廿六日 午前十時
 開會 同日午後六時 勸會
 場所 及 前日午後ノ會議ト同様
 出席者

現代支那大國共産黨の成立

新案(七月午後作成ノ假案)第一、
殷同ヨリ「長城以南及び西ノ地域ヲ速ニ一
連カニ且ツ完全接收スルコトニ同意ス」ト改メ
又其ノ二項「長城線各閘門ノ警備ハ相互ノ
協議ニ依リ決定ス」ノ項ヲ削除セラルベシ
ホアリ右ニ對シ我方委員ヨリ「右ノ一項ノ右
修正ニ依リ長城線ノ接收ノ意圖一層明カト
リ斯クハ如キハ停戦協定ノ本旨ニ非ズ第一項ヲ
修正案ノ如クスル以上第一項ヲ何トカ定メサ
可カラザルモ貴方ノ中央ニ對スル立場モ亦
RRRXXXXXXXXXXXX

0230

745

付テ二項ヲ削除スル代リニ「了解事項」トシテ長
城線各閘門ノ警備ハ別ニ協議スル迄現狀維
持ト了解区ノ一項ヲ加メサレ可カラズ而シテ
右現狀維持トハ我方ハ法的現狀維持ト解シ實
際上日滿側ノ自ノ圧力サレ地點ニ於テ中國係
警隊警備スル若クモ退却ヲ要求スルコ
トアルハシト説キ第一ノ項ハ先方ニ修正
要請リトシ右了解事項ノ一トシテ右修正事項
ヲ挿入スルコトセリ

0231

746

現代文庫大正八年四月九日

殷同ヨリ「華北当局ハ」次ハ「關外建物の不足」
為者分ノ内「ノ字句ヲ挿入シ」諸般ノ事項ノ代リ
二「交通経済等ノ事項」トシ「若クハ經濟上ノ便
益」為「向」ヲ削除シ「滿洲國諸機關」ノ代ニ「臨時
諸機關」ト改ム可キ旨ノ修正意見アリ、我方委
員ヨリ「当分ノ内」ノ句ハ可「十」モ「關外建物不
足」為「ハ中國側ニ說明」ヲ附スルハ「勝手」トシモ
體裁上ヨリ見「モ」之ヲ挿入スルハ「面白」カラス
若クハ「經濟上ノ便宜」為「ノ句」ノ削除ニ同意ス
ルモ「交通経済等諸般ノ事項」トシ「又日本側文書

二「滿洲諸機關」トスルモ「中國側ハ其立場上」
情諸機關ノ字句ヲ用フルモ可「ナリ」ト述べ「結
局右ノ通り」一應決定シ「更」本項ノ具體的事項
ニ際シテハ「別」協議ス「ノ句」ノ代リニ「了解事項
」トシ「申合事項」ニ「諸機關」ノ配置ハ「差
当リ」左ノ如シ
山海關、古北口、喜峰口、潘家口、冷口、界嶺口
ト規定セリ
新案第三
「概系左記各地」ニ於テ「削除」承認「シ」同意「ス

ト改メ原案「其ノ主要ナル地點」ト「其ノ地
 點」ト改メ又但書末尾「駐兵ヲ行フコト」
 ヲ「シテ」ト「警備部隊ヲ配置スルコト」ト「シテ」
 改メ之ヲ了解事項トシテ規定スルコトセリ
 右ニ関シ中國側ト懸出地點ヲ更ニ減少スルト
 若シ「差当リ」ノ句有「但シ」ト「」ヲ削除センコ
 トヲ主張セルモ我方ヨリ右側示ノ地點ハ必要
 ナルノミナラス場合ニ依リ其他ノ必要地點下
 可ク一方山海関ノ如キハ兵器完成次第長城以
 外ニ引揚ク等「差当リ」ノ字ハ双方ノ意義ニ

現代支那大野兵器部編纂局

749

0234

ヲ必要ナリ、又但書ハ承德方面鉄道完成スル
 迄ハ絶對必要ナルヲ力説シ前記ノ如キ少許ノ
 修正ノ後存置スルコトトセリ
 右終了後般同ヨリ別紙ノ如キ提案アリ右ニ對
 シ喜多夫佐ヨリ、右ハ單ニ希望トシテナラ副
 長ニ取次リ可キモ本申合ノ追加事項トスルハ
 不可ナリ但シ其ノ三ノ如キハ停戦協定違反ナ
 リ以テ之ヲ削除セラレ度シト述ヘタリ

現代支那大野兵器部編纂局

750

0235

場所出席者前日會議ト同様

喜多夫佐ヨリ昨視新京ヨリ嚴重ナル訓令到達
セル為左ノ通ノ改メサレ可カラサレ旨ヲ據
セリ

④第一ハ系察通リ「長城線ヲ含マサレ」一旬ヲ
挿入スルコト

⑤第二「滿洲國諸機關」ハ双方若一致文案ナ
ラサレハカラス尤モ中國側ニ於テ絕對同意
困難ナルニ於テ「膠東軍」認ムル機關ノ

現代文部大綱第四編第四頁

753

0238

文句トスルコト

③華北当局ハ大連會議ニ做ヒ北支政權トス
ルコト

④第四ニ航空連絡ヲ挿入シ華北当局ハ相互
ノ間ニ於テノ交易、交通通信及航空聯絡

等ヲ設定スル為必要ナル委員ヲ定メ膠東
軍ノ認ムル委員ト交渉ヲ開始セシムル
旨トスルコト

右ノ内(一)及(四)ハ絕對ニ挿入ヲ要シ然ラサレニ於
テ今回ハ已ム無ク何等決定スル處ナク引揚ケル

現代文部大綱第四編第四頁

754

0239

ヨリ外ナレト述ハ、我方各官友口之等各項撥
入ノ必要及會議決初衣ノ不利ヲ力説シ同日午後
ノ會議ニ於テ殷同ハ「華北当局ハ關東軍ノ今日
ノ申出ニ對シ充分十ノ誠意ト勇氣トヲ以テ處
理シワクアリ經年ニ關入レテ後日ニナリコト
化ス力如キハ絶對ニ為ササレ必算十ニ以テ
貴方ノ申出ニ付テハ充分慎重ニ研究シ又現狀
ニ照シテ相談スル考ナリ」ト前提シ關東軍ノ觀
ムル云々ハハ階梯ニ日本ノ承認セルモノヲ意味
シ面白カラサレニ付關東軍ノ指定スル云々ト

資料文部大臣官邸秘書官月誌

セテ直接ニモ階梯ニモ滿洲國ヲ承認スルカ如キ結
果ヲ來スエトハ避ケ度又第一ノ諸機關ノ種類
明カナラサレヲ以テ之ヲ明示セラレ度トテ再
警察ヲ配置シ排除セントセシカ我方ヨリ警察
ヲ配置ノ必要ヲ説キ只中國側ニテ必配スル警察
ノ地方行政機關ハ軍ニ於テモ然ルヘク指導ス
可キヲ以テ安心セラレ度必要ナラハ右條項ヲ
希望事項中ニ包含スル様ニラレ度ト説キ
結局局我方ヨリ「華北当局」ノ文句ハ甚ノ終

資料文部大臣官邸秘書官月誌

トノ牙一ニ長城ヲ含ムナリノ文句ヲ適当ノ形
式ニ於テ入レ了解事項一ノ長城各段門ノ警
備ハ別ニ協議スル迄現状維持トス一ノ項ヲ削
除シ第四ノ航空連絡ハ了解事項一三トシテ申合
事項第四ノ交通トハ航空ノ連絡ヲモ含ムモ
トス一ト一ノ項ヲ加フルノ案ヲ提示シ更ニ考
察スルニトシ晚餐後黄郛、何應欽、岡村副
長及中山書記官ノ残留ヲ求メ別室ニ於テ係
官更ニ協議セル結果終ニ般同ヨリ黄郛、何
應欽ノ決裁ヲ求メ日以上第一ノ長城線ヲ含ム

現代支那大戦兵器資料館蔵

ナリノ文句ヲ入ルルト昔ニ同意スヲ希望ス
ト原案ニ従歸ヲ要求シ其ノ通りニ決定シ第四
ニ我方要求點ヲ容ルニトトナリ申合事項並
了解事項別紙乙号ノ通り決定シ更ニ希望
事項ニ付テハ行文整理ノ上別紙丙号ノ通り
去那側ヨリ提出スルニトセリ(希望事項第
二ノ正揚軍隊トハ滿洲國軍隊ノ意味ナリ)依
黄郛、何應欽、岡村副長、中山書記官及係
官全員出席上喜多夫佐ヨリ右決定事項
ヲ讀上テ申合事項了解事項ノ承認ヲ求メ全

現代支那大戦兵器資料館蔵

